

平成27年深谷市教育委員会第10回定例会会議録

深谷市教育委員会

平成27年深谷市教育委員会第10回定例会

日 時 平成27年10月13日(火)
開 会 午後1時30分
閉 会 午後2時30分

場 所 教育庁舎 3階 大会議室

出席委員	教 育 長	小 柳 光 春
	教育長職務代理者	柿 沼 敬 一
	委 員	井 上 美佐子
	委 員	橋 本 幾 子
欠席委員	委 員	清 水 巖

出席職員	教 育 部 長	澤 出 晃 越
	次 長	植 竹 敏 夫
	次 長	片 桐 雅 之
	教育総務課長	葦 塚 洋 明
	教育施設課長	吉 田 稔
	学校教育課長	島 崎 祐 子
	生涯学習スポーツ	岡 田 真
	振 興 課 長	
	渋沢栄一記念館長	坂 倉 茂
	図 書 館 長	島 田 久 一

書 記	教育総務課	加 藤 昇
	課 長 補 佐	

欠席職員	文化振興課長	鳥 羽 政 之
------	--------	---------

1 開会

教育長が開会を宣告

2 前回議事録の承認

第9回定例会の会議録を全員異議なく承認

3 会議録署名委員の指名

教育長が橋本委員を指名

4 会議の概要

(1) 会議

① 報告1 平成27年度深谷市議会第3回定例会について
教育部長より説明

② 報告2 深谷市教育委員会後援に関する事務取扱要綱に基づく承認について
教育総務課長より説明

③ 報告3 平成27年度第1回深谷市チャレンジ（小学校）の結果について
学校教育課長より説明

④ 報告4 平成28年度深谷市立幼稚園の園児募集について
学校教育課長より説明

⑤ 報告5 深谷市民大運動会について
生涯学習スポーツ振興課長より説明

⑥ 報告6 ビーチバレーコートの設置について
生涯学習スポーツ振興課長より説明

⑦ 報告7 第10回ふかやシティハーフマラソンについて
生涯学習スポーツ振興課長より説明

⑧ 報告8 渋沢栄一翁の史跡をめぐる2015について
植竹次長より説明

⑨ 報告9 平成27年9月深谷市立小・中学校教員等の発令について【非公開】
片桐次長より説明

発言の要旨

① 報告1 平成27年度深谷市議会第3回定例会について

教 育 長 事務局より説明を求めます。

教 育 部 長 (概要を説明)

教 育 長 本報告について、質疑はありませんか。

柿 沼 委 員 質問なんですけど、3ページの清水健一議員の質問に対する答弁の発達障害についてのパーセントというのは、どういう数字なんでしょうか。

教 育 長 清水健一議員の発達障害についての平成24年度の国の調査では6.5%、25年度の県の調査では10.7%、深谷市独自の調査では6.5%、これについて説明をお願いします。

教 育 部 長 LD、ADHD、アスペルガー、高機能自閉症等、こういったものは、なかなか選別が難しいところがございます、一括して発達障害といった形で捉えて答弁させていただきました。こういった発達障害の疑いのあるお子さんというのは、児童、生徒数全体の中の6.5%、あるいは10.7%、あるいは6.5%、そういった形で調査が数値としてでてきたということでお答えしました。

② 報告2 深谷市教育委員会後援に関する事務取扱要綱に基づく承認について

教 育 長 事務局より説明を求めます。

教育総務課長 (概要を説明)

教 育 長 本報告について、質疑はありませんか。

(質疑なし)

③ 報告3 平成27年度第1回深谷市チャレンジ(小学校)の結果について

教 育 長 事務局より説明を求めます。

学校教育課長 (概要を説明)

教 育 長 本報告について、質疑はありませんか。

橋 本 委 員 参加生徒数ということで、名簿登録数と書いてあるのは、生徒の総数なんですか。この名簿登録数と参加生徒数の差というのは、ただ単に欠席者なのか、長期欠席者も含まれているのか又は、いたのに受けたくないという人がいるのか、その辺のことを教えてください。

教 育 長 7ページの市内10校名簿登録総数が1,369名、参加数が1,327名、あるいは1,322名、参加率が96%程度、この差異ですね、その内容を分かる範囲でお願いします。

学校教育課長 名簿登録総数は、その学年に在籍する生徒全てだと思いますが、中には特別支援学級でしたり、日本語指導で教育課程が

別の者がございます。また、不登校生徒数もあって、そういう数になっているかと思えます。

井上委員 今、課長から説明があった部分を疑問に思っていて、こういう機会が与えられているにも関わらず、学習に対する意欲が50%に満たない部分もあり、3級全体としても、かなり目に付くんですね。教育委員会として、どのようにこの問題を捉えていますか。

また、それは何が課題なのかということをもう少し分かれば説明していただきたいのと、そのチャレンジをやることによって、学力の向上にどのように繋がっているか、その実績等が見られるようであれば教えてください。

教育長 2つ質問がありました。

1つ目は、3級の数学、英語とも「学習に対する意欲が高まった」と回答した割合が低いですが、この辺についてはどういふことですか。

2つ目は、この深谷市チャレンジが学力向上にどう繋がっているかです。

学校教育課長 まず、1つ目ですが、3級に関わっている生徒の学習に対する意欲が数学も英語も「そう思う」という生徒の割合が50%を切っており低いということですが、やはり基礎基本が身に付いていない生徒が3級にチャレンジするわけであり、その生徒達がいかにして、基礎基本を身に付ける意欲を高めるかが課題になっています。この問題については、まず1回目にチャレンジしてみて認定者が出まして、1か月以上猶予を置いて、また2回目をチャレンジするという仕組みになっています。その期間の中で補充学習や教科の中での指導等して、そのことを身に付けて次回のチャレンジでは、これがクリアできるようにするという仕組みになっています。そのため、3級の生徒が更に2回目のチャレンジを受けて、意欲が高まるような指導を学校としては継続してやっているかと思えます。

2つ目の内容ですが、とても簡単な内容を用意しております。何回も繰り返して指導すれば誰でもチャレンジ克服できるような問題を用意しています。やればできるということをお子に指導している狙いもあります。そのような簡単な問題を使って繰り返し指導をしてできるようにさせて、できる喜びを1人1人の生徒が感じて、更に学習に対する意欲が高まったという、そういう見通しを持ってこれからも指導していきたいと思えます。

井上委員 この3級程度の基本がまだ未定着な子供の意欲が低いというのは分かるんですけども、やっぱり1級、2級を受けている児童、生徒は、もう少し高まっていいような気がするんですね。学ぼうという意欲が高まっていかないと、せっかく良いものを

企画しているにも関わらず、やらされているという感覚になってしまいかと思います。挑戦する意欲を高めるという方向に持っていくべきだと思います。

教 育 長 学習意欲の高まりを狙いながら、この程度でいいのかという現実をどう考えますか。

私の方からも聞きたいんですけど、子供達は深谷市チャレンジをどういうふうに捉えていますか。これを楽しみにして認定証をもらえることを喜んでいるのか、ルーチン化してしまっているのか、その辺の学校の実態を把握していますか。

学校教育課長 学校の現場では、特に低学力の生徒はなかなか認定証や、表彰状等、そのようなものをいただくという機会がありません。難しい問題ではなく、簡単な問題でも時間をかけてコツコツとやれば認定証をもらうことができ、それを調査書にも書いてもらえるので、低学力の子供達にとっては大変有意義であり、喜んで取り組んでいました。

また、高い学力の子供達については、更に認定級よりも高く特1を目指してやるというふうに取り組ませていくことは必要かと思います。始まった年よりマンネリ化しないように、しっかり周知をして、この取組が無駄にならないように各学校にも、もっと働きかけていかなければならないと反省しているところです。

教 育 長 私からも1点お聞きします。これをやったもう一つの狙いは高校入試で深谷の子供達がより頑張れるようにと、チャレンジの結果を内申書に記入することでした。深谷の子供達は、こう頑張っていますと、近隣の高校長を回って理解を求めています。そういうことについて情報はありますか。

学校教育課長 深谷市内の学校長と寄居町、深谷市、熊谷市の各高校の校長先生との懇談会の中で、この深谷市チャレンジは大変素晴らしい取組なので調査書にも是非具体的に記入してほしいという意見が何校かありました。そのため、そのように取り扱っていました。

教 育 長 入試の内申書いわゆる調査書にはこれを活用していますか。

学校教育課長 はい。

片 桐 次 長 チャレンジをスタートしたときに、深谷市では全国学力学習状況調査の無回答率が非常に高かったです。まず、問題を見たときに、諦めてしまう子が非常に多かったです。そういうところを改善しようということで、何か手立てはないかと学習意欲に焦点を当てた形でチャレンジをスタートしました。スタート時は、今までにない形の学習の捉え方で、意欲を全面に持ってきて、とにかく挑戦し力をつけていこうと始めたんですが、今の段階で井上委員さん御指摘のように、ある意味学校も私達も少しルーチン的であり、マンネリ化して、この時期にこれをや

るんだなという部分があったのではないかと反省しています。先ほど学力にどう結び付けるのかという話もありましたので、改めて学力を捉え直して、全国学力学習状況調査も埼玉県学力学習状況調査もチャレンジにしても根本には学ぶ意欲だと思っんです。その学ぶ意欲を関連させながら、どうやって学力に結び付けるために、少しでも自分より高いハードルにチャレンジする気持ちを、授業だけではなくて、いろいろな教育活動の中で、チャレンジする姿勢を交えながら、井上委員さんおっしゃるように7割程度まで上げていかなければいけないのかなと思っています。

さらに、今の課題として、学習意欲、確かに回答率は高まってきたんです。全国学力学習状況調査のその部分をどうやって学力に反映させるか、なかなか反映されてこないものですから、それをどう結びつけるか、もう一度洗い直して検討しておりますので、もう少し精査して学校教育課で取り組んでいきたいと思ひます。

井上委員 9月の教育委員会で全国学力学習状況調査の結果を報告しましたよね。昨日の新聞にも出ていましたよね。そういうものを含めて、各担任の授業改善に対しては、教育委員会からどのように関わっているのですか。

教育長 9月の教育委員会で全国学力学習状況調査の結果を報告し、中期的な対応を示しましたが、その進捗状況ですね。

片桐次長 これにつきましては、以前教育委員会でもお話しさせていただいたように、私達も授業をどう変えていくか、より分かる授業、より子供達の主体的な授業をどう作っていくのかということで、今深谷ベーシックという形で各教科ごとの基礎基本作りをしています。これから、それを全ての職員に周知し、基礎の型を定着させようとしています。その型を基に各学校でさらに工夫・改善を図り、いわゆる基礎となるものさしをもう一度全ての職員に徹底して始めていただいているところです。

10月末に国語、数学、理科、英語を作り、その後、順次教科を加えていきたいと思っています。そのために、それぞれ何名かずつ教員を集めて、原案をたたきながら進めているところです。

教育長 今、ベーシックというのを取組中ということですね。

片桐次長 はい。

教育長 では、11月にはそれが示されるということですね。10月中にはもう作れるということですか。

片桐次長 はい。

橋本委員 質問ではなくて提案なのですが、子供達の声を代弁させていただこうかなと思っています。特に、基礎学力が定着していないようなお子さんは「何で勉強しなきゃいけないのか」と、

大人に問いかける場面はありませんか。その場合、先生方はこうだからだよと、答えをお持ちでこういう取組をされているのでしょうか。日頃からとても感心があります。今、何故勉強をしなければいけないのか、と言われたらどう答えますか。意欲を高めるのがポイントかなという気がします。納得のいく答えを言われれば、子供達は自分で学ぼうとすると思います。精神論になってしまいますが、子供の立場を考えたら、何かヒントが出てこないかなと思いました。

教 育 長 橋本委員の御意見は、学力的に課題のある子がなかなか学ぶ意欲が湧いてこない時期に、明快な目的が示されれば子供は学ぶ意欲が湧くのではないかということですが、どうですか。

学校教育課長 深谷市の学校では夢と志を持ち、まごころと思いやりのある子を育てるということで、どの学校でも夢と志をキーワードにして、各学校の教育目標に進んでいくというふうに考えています。大きくなったらどんなふうになりたいや、進路指導、キャリア教育というのも全ての教育活動を通じています。夢と志を育むということはどの学校でも進めていることかなと考えています。

また、例えば小学校で言うと2分の1成人式です。中学校ですと、各高校の訪問や、体験学習等、段階を通じて進路指導やキャリア教育を行っています。その中でいろいろな家庭環境が違ったり、学力が違ったり、発達障害があったりしますが、その子に合ったきめ細やかな進路指導を引き続きやっていくことが必要かなと捉えています。

橋 本 委 員 市町村教委の冒頭に、その子の本質を見極めて引き出すような教育をする先生になりなさいと書いてあります。ティーチャーではなく、エデュケイターになりなさいというところに感銘を受けました。教育委員会として、このような考え方を若い先生方にお示ししたら結果がもっと変わってくるのではないかと思います。

教 育 長 橋本委員がおっしゃっているのは、学ぶ意味を捉えたときに我々はどう答えるかということです。1つは幸せ作りの手立てを見つけることです。もう1つおっしゃったのは、エデュケイションというのは開いていく、引き出していくという、元々ある子供の良さを引き出していくのがエデュケイトだという意味だと思うんですね。あるいは、ディベロップメント、発達というのですが、元々の語源は巻物を開いて中に何か詰まっているだろうという考えですね。エデュケイションもディベロップメントも同じですね。つまり、子供が持っている本来の良さを我々が引き出したり、開いていけば子供は自分の良さに気づき、成長していくだろうということです。その手立てを我々がしっかり見ていかないといけないという意味だと思うんですね。

- 片桐次長 今、お二人が言ってくれたとおりだと思います。これは、自分なりの個人の考えですが、生徒指導等をやっている、そういった子供と話すときは、君が豊かに生きるためだよと話します。
- 例えば、買い物に行って1,000円出して、本当は500円のおつりが250円しか返ってこなかったことが分かったらどう思うかという話をして、それは悔しいと返答があります。そういうものを学ばなければいけません。
- どこかに行って、いきなり動物が襲ってきて、何だか分からなかったら大変だろうという話をし、それはそうだという返答があります。抽象的ですが、より豊かに生きるためには、今いろいろな知識を学ばなければいけないという話をします。
- 教育長 ときどき、立ち止まって考えなければ、子供は主体的に自分から学んでいかないだろうということを頭の隅に入れておく必要があると思いました。教育委員会というのはそうしたことを協議して、それを受けて行政当局が策を展開していくんだらうと改めて思いました。
- 井上委員 それは家庭でも言えることですよね。学校と家庭の両者からの導きがなくては学習というのは成り立たないと思います。
- 柿沼委員 具体的な質問をする生徒がどのように変わっていくか分からないので、そのチャンスを見つけてあげるのが先生方の仕事かなと思います。先生方のバックアップをするのが教育委員会かなと思います。大変でしょうが頑張っていけないといけない仕事だと思います。

④ 報告4 平成28年度深谷市立幼稚園の園児募集について

教育長 事務局より説明を求めます。

学校教育課長 (概要を説明)

教育長 本報告について、質疑はありませんか。

(質疑なし)

⑤ 報告5 深谷市民大運動会について

教育長 事務局より説明を求めます。

生涯学習スポーツ (概要を説明)

振興課長

教育長 本報告について、質疑はありませんか。

10周年記念ということで力が入っていますよね。よろしくお願ひします。

⑥ 報告6 ビーチバレーコート設置について

教 育 長 事務局より説明を求めます。
生涯学習スポーツ (概要を説明)

振 興 課 長
教 育 長

本報告について、質疑はありませんか。
このビーチバレーボールコートについて、よそから問合せ等は来ていませんか。

生涯学習スポーツ
振 興 課 長

当日なのですが、NHKが取材に来てくれるというわけだったんですが、こちらが雨だったので、秩父のお祭りの方に行ってしまう、顔を出していただけませんでした。埼北読売には来ていただきました。毎日新聞からは問合せがありました。
また、中学校と高校にはビーチバレーの全国大会があります。そういったところに向けて、県北からもビーチバレーの大会に出場できるような形を作っていきたいと思います。新しくできたものですから、いかにPRしていくかだと思います。その辺を通じて、問合せにつきましてはパティオで対応していただきます。

教 育 長

大変汗を流していただいてありがとうございます。大変ですが、よろしくお願いします。

⑦ 報告7 第10回ふかやシティハーフマラソンについて

教 育 長 事務局より説明を求めます。
学校教育課長 (概要を説明)

教 育 長 本報告について、質疑はありませんか。
(質疑なし)

⑧ 報告8 渋沢栄一翁の史跡をめぐる2015について

教 育 長 事務局より説明を求めます。
植 竹 次 長 (概要を説明)

教 育 長 本報告について、質疑はありませんか。
(質疑なし)

⑨ 報告9 平成27年9月深谷市立小・中学校教員等の発令について【非公開】
【非公開案件につき内容は省略】

教 育 長 本日の議事はすべて終了いたしました。
次回第11回定例会は、11月16日(月)午後6時開会です。

以上で、平成27年深谷市教育委員会第10回定例会を閉会します。